

知って納得 あなたのマネープラン

クイズで磨く！
経済・
マネーセンス

お金の基本から話題
になっているトピック
まで、クイズで
経済知識とマネー
センスを磨きましょう。

なるほど！
マネープラン

今回のテーマは、
「確定拠出年金 (DC)
は長期の資産運用に
適した制度」です。

ライフイベント
などにかか
るお金

お金にまつわるデー
タを紹介します。今
回は、「教育費」です。

クイズで磨く！
経済・
マネーセンス
マネークイズに挑戦！

Q1 企業の長期的な成長のために必要とされる「ESG」の考え方。それぞれを頭文字とする3つの観点のうち、「E」は何を示すでしょうか？

- A Engagement (エンゲージメント) B Employee (従業員)
C Environmental (環境)

Q2 2017年3月末における企業型確定拠出年金の市場規模はどの程度でしょうか？

- A 約78.5兆円 B 約1.4兆円 C 約10.5兆円

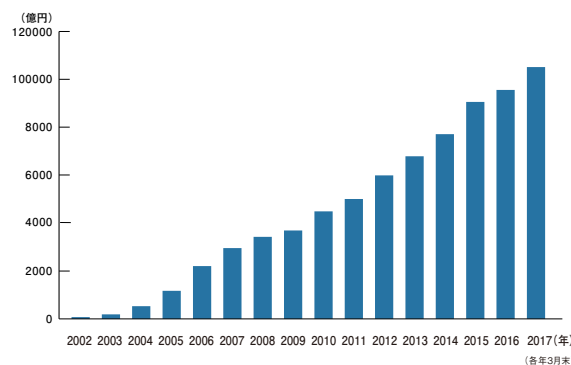
Q1
答え C

「ESG投資」は、「Environmental (環境)」「Social (社会)」「Governance (企業統治)」に対する企業の取組みを重視して投資銘柄を選定することで、それぞれの言葉の頭文字からこのように呼ばれています。環境問題や労働条件改善に前向きな企業が評価され、こうした企業が業容を拡大することで、社会全体の持続可能性 (サステナビリティ) が高まることが期待されます。

Q2
答え C

最近新聞やテレビで話題となっている企業型確定拠出年金や個人型確定拠出年金 (iDeCo)。企業年金連合会が公表している「確定拠出年金統計資料 (運営管理機関連絡協議会提供)」によると、2017年3月末における企業型確定拠出年金の市場規模 (金額ベース) は、2016年3月末より約9,592億円 (対前年比10%) 多い、約10.5兆円となっています。同様に、個人型確定拠出年金の市場規模も約1.4兆円と2016年3月末に比べ、約1,664億円 (対前年比14%) 増えています。

■ 企業型確定拠出年金の資産額



(出所) 企業年金連合会「確定拠出年金統計資料 (運営管理機関連絡協議会提供)」より作成。



なるほど!
マネープラン

確定拠出年金(DC)は、 第2回 「長期の資産運用」に 適した制度です。



一体何が適しているのか、お分かりですか？

1

「積立投資」が基本のDCは、 長期の資産運用に適した制度です。

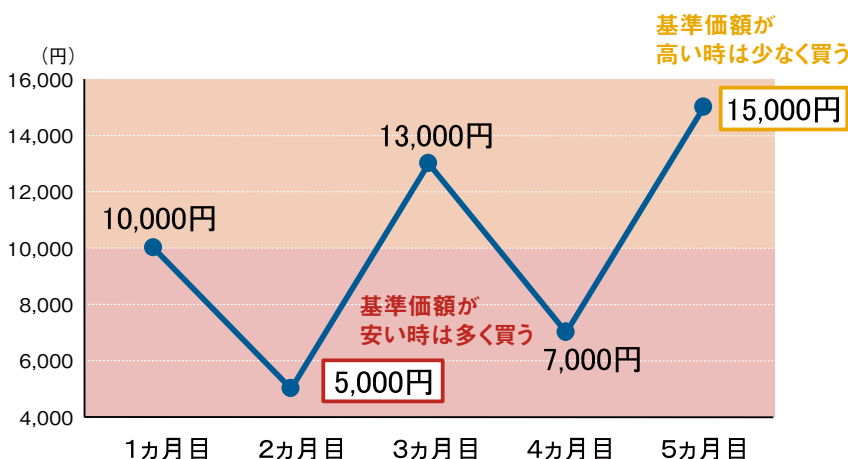
多くの読者の皆様は今までに、「DCは、長期の資産運用に適した制度である」との説明を耳にされたことがあるのではないのでしょうか。では、一体DCの何が「長期の資産運用」に適しているのか、お分かりですか？

ここで改めて確認しておきましょう。まず1つ目は毎

月一定の金額で投資を続けることで、購入単価を引き下げることが期待できること。一定の金額を定期的に投資する「積立投資」はドル・コスト平均法とも呼ばれ、投資信託の場合は、その基準価額が高い時には少なく、安い時には多く買うことができます。

ある投資信託の基準価額（10,000口あたり）推移（イメージ）※1

（注）毎月1万円ずつ購入する場合



ドル・コスト平均法を利用すれば、価格が高い時には少なく、安い時には多く買うことができますので、平均購入単価を引き下げることが期待できます。



時期	1カ月目	2カ月目	3カ月目	4カ月目	5カ月目	合計
買付口数	10,000口	20,000口	7,692口	14,285口	6,666口	58,643口
買付金額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	50,000円

1万口あたり
平均購入金額
8,526円

※1 上記はあくまで概念図であり、何らかの商品の運用実績を示唆するものではありません。毎月の購入口数は小数点以下を切り捨てて計算。手数料、税金などは考慮していません。

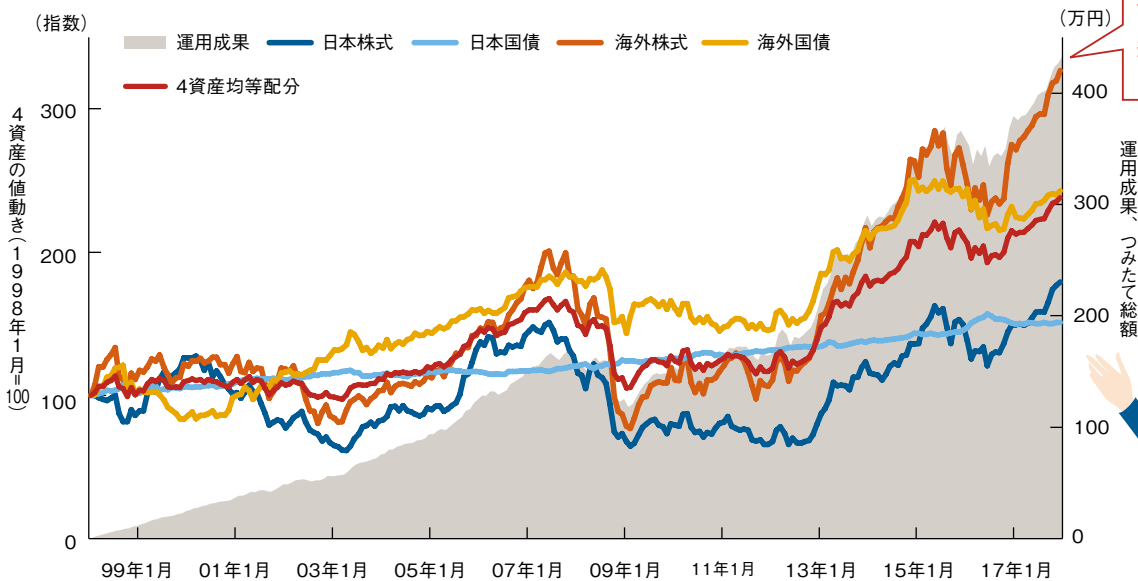
2

「複利効果」で資産の増大が期待できる。

長期にわたって「積立投資」を行う2つ目の効果が「複利効果」です。複利効果によって、それだけ大きく資産を殖やすことにつながります。毎月一定額の掛金を加入者が運用するDCの仕組みは、積立投資と同様の

効果があり、資産を効率的に殖やすことが期待できます。より大きな収益が期待できる商品を組み入れて、長期的に運用をしてみたいはかがでしょうか。

■ 過去20年間、毎月1万円ずつ主要4資産に積立投資を続けた場合の運用成果^{※2}

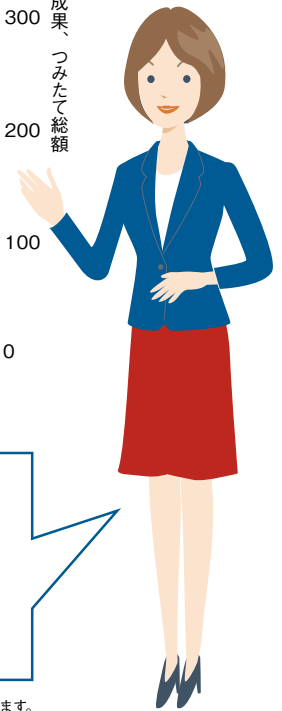


例えば、月1万円の積立投資を過去20年続けていたら、運用成果は約**433万円**(投資元本は240万円)。

※2 RIMESよりフィデリティ投信作成。日本国債：FTSE日本国債インデックス。海外国債：FTSE世界国債(除く日本)インデックス。日本株式：MSCI日本インデックス。海外株式：MSCIコクサイインデックス(除く日本)(円換算ベース、税引前配当金込)。4資産均等配分：各資産クラスに1/4ずつ均等配分した場合を使用。いずれも円ベース。期間：1998年1月末～2017年12月末。それぞれ1998年1月末を100として指数化。手数料、信託報酬、税金は考慮していません。※上記は過去の指数の実績で、将来の収益を予想、または保証するものではありません。

さらにDCは、運用益が全額非課税^{※3}。運用益がそのまま運用資金となるため、より効率的な資産づくりができる可能性が高まります。あなたも、DCのメリットを上手に活用して下さい。

※3 年金資産に課される特別法人税(年1.173%)は、平成32年3月31日まで課税が凍結されています。



3

「積立投資」の効果をさらに高めるDCの活用方法。

確定拠出年金には、「積立投資」の他にも「長期投資」という投資の基礎ともいえる投資方法が組み込まれているうえ、運用商品を上手く選ぶことによって「分散投

資」の効果も得ることができるなど、専門的な知識がなくても、安定的に資産を運用する仕組みが組み込まれています。

ライフイベント
などにかか
るお金

教育費

こども 1 人当たりの教育費の総額は？

約 **822** 万円～約 **2,582** 万円

(出典) 文部科学省「平成28年度子どもの学習費調査」(2016年)と
日本学生支援機構「平成28年度学生生活調査結果」(2016年)よりフィデリティ投信が推定

こどもにはしっかりと教育を受けさせたいのが親心。もしも、こどもを幼稚園(3年間)から大学まで公立に通わせたとしたらいくらかかるのでしょうか? 文部科学省『平成28年度子どもの学習費調査』と日本学生支援機構『平成28年度学生生活調査結果』からの試算によると、平均総額は約822万円です。

一方で、幼稚園から大学まですべて私立に通わせた場合(大学は1人暮らし)の平均総額は約2,582万円。幼稚園と大学だけ私立で、小学校から高校まで公立の場合は約1,154万円(大学は自宅通学で試算)です。

幼稚園～高校までの学習費の年額

	幼稚園	小学校	中学校	高校
公立	23万3,947円	32万2,310円	47万8,554円	45万862円
私立	48万2,392円	152万8,237円	132万6,933円	104万168円

(出典) 文部科学省「平成28年度子どもの学習費調査」(2016年)

大学生生活でかかる1年間の費用

	自宅	下宿・アパート・その他
国立	69万9,600円	130万7,700円
公立	71万1,000円	124万2,100円
私立	134万2,800円	202万7,100円

(出典) 日本学生支援機構「平成28年度学生生活調査結果」(2016年)よりフィデリティ投信作成。

(注) 出典元データより、自宅は学費のみ(食費等の生活費を除く)。
下宿、アパート、その他は学費以外に生活費から食費、住居・光熱費、保健衛生費の自宅の場合との差額を加算した集計値。

・当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、その正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
・当資料に記載の情報は作成日時点のものであり、市場の規模やその他の状況によって予告なく変更することがあります。
・当資料は投資教育の目的で提供されておりますので、許可無く対象とされていない第三者に開示することを禁じます。

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第388号

一般社団法人投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員

©フィデリティ投信株式会社

All Rights Reserved.

MK1180823-1 DC180823-1

※記載内容は一般的な説明を目的としており、前提条件によって異なることもありますので、実行にあたっては専門家にご相談ください。